

## ◎中村哲医師アーカイブ

\*「古賀西小学校十周年誌」より（一九六三年十一月刊）

## 自由に飛びまわった日々——古賀西小の思い出 中村哲

光陰矢の如し、本当に不思議なものは時間です。十年一昔と云いますが、最下級生として僕らが新しく誕生した古賀西小学校に入ったのはついこの間のようです。そうです。十年前の丁度今頃でした。新校舎のかわいてまもないペンキのにおいと、ま新しい机のにおいを嗅いだのは。十年……。その頃、あどけなく遊んでいたもの、やんちゃで先生を困らせていたもの、今その或るものは高校で学業にいそしみ、或るものは社会に出て働き励み、また或るいは全く消息を知らないものもあります。

六年間というぼくらの学窓生活の大部分を占める小学時代の思い出は色々と数限りありません。楽しい思い出はもちろんです。悪い事をして先生を困らせたこともありま

す。けんかして泣かされたこともあります（勝ったことではないですが）。つまらない事をして得々としておったこともあります。今考えてみて、あの時あんなことをせねばよかった。あの時はああすべきだった、というる考えます。そして、おそまきながら「あの時はすみません」とあやまりを言ったりやりたい人や先生が沢山います。

しかし、いかなる思い出にせよ、西小学校時代ほど、天真爛漫として自由に飛びまわり自由に跳ねまわった時代はなかったし、これからも、もうそんな時代なんかやってこないでしょう。考えると僕らはとんびのようなものでありました。太陽の戴く秋の青天の中、円を描いて存分に飛翔する、あのとんびです。何ものをもはばからず、ただ空の中を太陽の中を自由に舞う。あのとんびです。僕の小学時代に対する思い出は

これでした。

中学、高校、僕は性格が変わりました。或る人は僕をおとなしいと言いい、あるいは無口だと言いい、あるいはひどい恥ずかしがりやだ、ひっこみ思案だと言いい、小学時代の僕をまるであべこべにひっくり返した今の僕です。しかしともあれ僕は、小学時代に得たあの数々のなつかしい思い出と、そしてそこで得た、「天真爛漫」という子供らしい素晴らしい精神を忘れません。今、恩師の先生方に感謝する次第です。そして学校がますます素晴らしいものに発展していきますよう、神さまに祈ります。

昭和三十八年九月



昆虫採集に夢中だった少年時代